

# 須知高校

# 魅力化プロジェクト

# ビジョン

---

京丹波町から  
未来を創る  
人財を育成

2026年～2028年度版



# 目次

|                |       |     |
|----------------|-------|-----|
| はじめに           | ----- | 0 2 |
| はじめりと背景        | ----- | 0 3 |
| 地域での高校の取組      | ----- | 0 9 |
| ビジョンができるまで     | ----- | 1 4 |
| わたしたちの描いたビジョン  | ----- | 2 0 |
| ビジョン実現 3つのステップ | ----- | 2 2 |
| おわりに           | ----- | 2 4 |



# はじめに

## 150年の挑戦、未来へつなぐフロンティア精神

### 京丹波と共に歩む、学びと食の拠点

### 支援から連携へ―須知高校魅力化プロジェクト始動

京都府立須知高等学校（以下、須知高校）は、明治9年（1876年）に創設された京都府農牧学校を起源とし、以来150年の歴史と伝統を誇る学校です。京都府農牧学校ではアメリカよりジェームス・オースチン・ウィード氏を主任教員として迎え、当時最新のアメリカ式農業教育を展開しました。ウィード氏の在任は短期間ではありましたが、近隣の学生を中心に他にも多方面から高い志を持った学生が集まってこの地で学び、その学びを各方面に還元したと考えられます。その後、京都府農牧学校は幾度かの変遷を経て、現在の須知高校となりましたが、近代農業教育の最先端を担っていたフロンティア精神は150年経った今も確かに受け継がれています。また、駒場農学校（現東京大学）、札幌農学校（現北海道大学）とともに日本三大農業教育発祥の地と謳われた京都府農牧学校が築いた礎が須知高校の教育だけではなく、今日の京丹波町における農業と食の基盤を成したことは言うまでもありません。つまり、京丹波町と須知高校は歴史をともに歩んできた重要なパートナーなのです。

須知高校は町内唯一の公立高校として、その存在意義は極めて大きいと考えます。歴史的背景に加えて、現在そして未来にわたり、町立小中学校とともに町の宝である子どもたちを育てる拠点として大きな役割を果たす存在であるからです。現在は普通科と食品科学科を有し、とりわけ食品科学科では広大な校地を強みとして様々な取組を進め、「食の町」を推進する京丹波町の施策と呼応し、相互協力のもと発展を続けています。

近年は名だたる一流ホテルや地元企業等と連携したり、各種コンテスト等で入賞したりすることで須知高校の持つ可能性と価値を広く認知していただく機会も増えてきました。普通科においても地域に根差した探究学習等に取り組み、不透明な時代をたくましく生き抜く力を育て、地域創生を担う人材育成に尽力しています。また、京都国体（1988年）を契機に旧丹波町と旧瑞穂町において取り組んできたホッケー競技は、須知高校の部活動強化指定種目として全国大会にとどまらず、国際大会でも活躍する選手を輩出する等、町のスポーツ振興と子どもたちの夢の実現に貢献してきました。生徒数減少が進む中ではありますが、生徒は実に様々な場面で活躍し、力を発揮しています。それは須知高校が一入ひとりにしっかりと寄り添い、持てる力を最大限に引き出す教育を推進しているからです。

これまでも京丹波町は、京丹波町に立地する公立高校として須知高校の活性化と魅力化を全面的に支援してきました。平成28年には校内に須知高校教育活性化推進協議会が設置され、町の教育振興対策交付金が生徒の将来の夢の実現やホッケー部等の部活動強化に活用される仕組みもできました。また、京丹波町における須知高校の在り方についても何度となく議論を重ねてきました。しかし、時代の流れは町にも高校にも容赦なく襲いかかってきています。こうした状況において、須知高校の将来的な発展のためには支援からさらに連携という新たな枠組みを構築して取り組んでいく必要があるということから、令和6年に京丹波町と須知高校による「須知高校魅力化プロジェクト」を立ち上げ、「須知高校魅力化ビジョン」を策定することとしました。

# はじまりと 背景

## 01 京都府立高校の在り方について

少子化に伴う府内中学校卒業生の減少が進む中、京都府教育委員会（以下、京都府教委）においては、平成28～29年度に「ロ丹地域における府立学校の在り方懇話会」を開催され、地元の有識者等からの意見聴取が行われました。さらに「府立須知高等学校の在り方検討会議」も開催され、平成30年3月には、ロ丹地域の府立高校について、生徒の希望進路の実現に向け、府立高校の魅力化をより進め、学校規模の維持に向けた取組を進めていくことが示されました。

また、京丹波町では、平成27年度と令和5年度に「京丹波町における須知高校の在り方懇話会」を開催しました。その提言では、須知高校は、「地域人材育成、食のまち推進、スポーツ振興、文化継承の拠点として、町と連携し特色化を進め、持続可能な高校づくりを目指す」としています。須知高校は、日本三大農牧学校の歴史と伝統を継承し、町の基幹産業を支える多くの人材を輩出してきた「京丹波町発展の原点」として認識され、様々な方策が示されました。

このように京丹波町として、幾度となく須知高校の在り方を検討してきた経緯がありますが、生徒数減少に歯止めがかからず、京都府教委は須知高校において、令和2年度よりホッケー部を対象とした全国部活動特別入学者選抜を開始しました。令和元年度には、全国募集応援委員会を学校関係者で設立し、町内での下宿受け入れの協力を呼びかけました。はじめは下宿で対応していましたが、近年は、下宿確保が困難となり、府外生徒（丹波篠山市）は保護者の送迎で通学している現状です。

さらに、京都府教委が策定した「第2期京都府教育振興プラン」（令和3～12年度までの計画）を踏まえた「府立高校在り方ビジョン」（令和4～13年度までの計画）では、教育制度の改革の一環として「全国募集制度」や寮などの施設整備の検討が示されました。また、令和5年12月に策定された「魅力ある府立高校づくり推進基本計画」において、今後京都府教委が取り組んでいく教育制度等に関する基本的な方針が示されたところです。

さらに令和7年3月に京都府教委は「府立高校の再編整備の考え方」を策定され、北部地域（ロ丹、中丹、丹後地域）の全日制高校においては、第1学年の入学者数が、3学級に相当する生徒数（120名）を下回る学校が複数ある場合、それぞれの地域内での再編の検討を開始することが示されました。

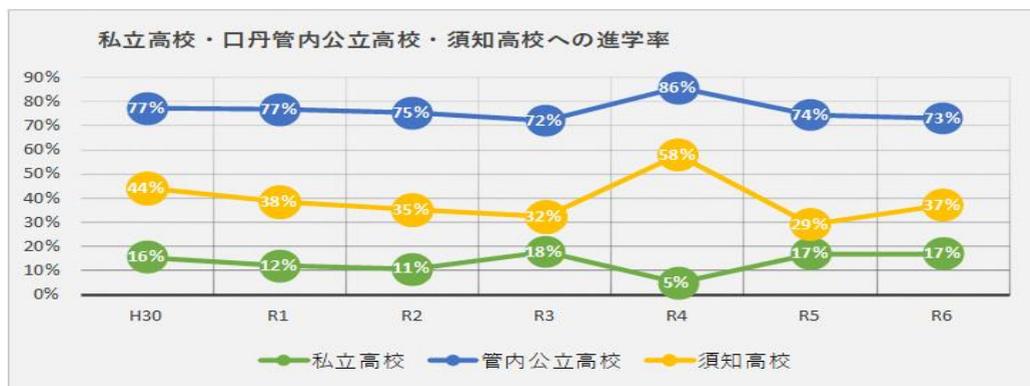
## 02 須知高校の現状

かつて生徒数900名を超える時代もありましたが、全国的な少子化の流れの中で令和7年度の全校生徒数は132名となり、須知高校の定員270名（学年定員：普通科60名、食品科学科30名）に対し、未充足の状況にあります。

近年の京丹波町立中学校の生徒数と高校進学状況は次の通りです。

### 町立中学校からの進学状況

|                     | H30 | R1  | R2  | R3  | R4  | R5  | R6  |
|---------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 町立中学校卒業生数           | 109 | 99  | 102 | 90  | 83  | 82  | 81  |
| 私立高校等進学者数（高専・通信含む）  | 17  | 12  | 11  | 16  | 4   | 14  | 14  |
| 私立高校等への進学率（高専・通信含む） | 16% | 12% | 11% | 18% | 5%  | 17% | 17% |
| 口丹管内公立高校進学者数        | 84  | 76  | 77  | 65  | 71  | 61  | 59  |
| 口丹管内公立高校への進学率       | 77% | 77% | 75% | 72% | 86% | 74% | 73% |
| 須知高校 普通科進学者数        | 39  | 29  | 24  | 18  | 29  | 18  | 20  |
| 須知高校 食品科学科進学者数      | 9   | 9   | 12  | 11  | 19  | 6   | 10  |
| 計                   | 48  | 38  | 36  | 29  | 48  | 24  | 30  |
| 須知高校への進学率           | 44% | 38% | 35% | 32% | 58% | 29% | 37% |



## 考察

- ・ 町立中学校の生徒数が徐々に減少している。（今後も減少が続く）\*資料
- ・ 私立高校への進学率は2割を超えることはない。今後、高校授業料の無償化がどのように影響するかわからないが、就学支援金制度があっても2割程度なので進学率の大きな変動はないのではないか。主な私立高校は京都市内にあるため、京丹波町からの通学（時間・経費）の負担感はかなり大きいのではないかと推測できるからである。
- ・ 町立中学校からの口丹管内公立高校への進学率は概ね7割台で推移しており、口丹管内公立高校の中では須知高校への進学率が高い。普通科を志望する生徒の中には須知高校のほかに園部高校や亀岡高校を選択肢として検討するケースも見られ、その判断にはさまざまな要因が影響していると考えられる。同じ普通科であり、通学面では須知高校が比較的有利であるにもかかわらず、他校を選ぶ生徒が一定数存在する理由については、丁寧に分析していく必要がある。（町立中学校3年生対象意識調査を実施 R7.3）
- ・ 町立中学校の卒業生について、須知高校・園部高校・亀岡高校へ進学した後の進路状況（H29/30卒）を町教育委員会が独自に調査したところ、国公立大学や私立大学等への進学実績に大きな差異は見られなかった。一方で、園部高校・亀岡高校は生徒数が多いため大学進学者数も相対的に多く、進路実績がより目に見えやすいことから、進学先として安心感を与えている可能性も考えられる。それぞれの高校には特徴と強みがあり、進路選択の背景にある生徒・保護者のニーズを多面的に理解していくことが求められる。

\*資料

京丹波町立中学校生徒数（令和7年10月時点）

|        | 3年     | 2年     | 1年      | 中学校入学予定数 |         |         |         |         |         |         |  |
|--------|--------|--------|---------|----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--|
|        |        |        |         | R8入学     | R9入学    | R10入学   | R11入学   | R12入学   | R13入学   | R14入学   |  |
|        |        |        |         | 6年生      | 5年生     | 4年生     | 3年生     | 2年生     | 1年生     | 6歳      |  |
| 蒲生野中学校 | 44     | 35     | 43      | 39       | 41      | 35      | 46      | 29      | 36      | 31      |  |
| 瑞穂中学校  | 17     | 19     | 23      | 28       | 17      | 13      | 26      | 8       | 14      | 14      |  |
| 和知中学校  | 11     | 7      | 9       | 14       | 9       | 18      | 9       | 13      | 11      | 6       |  |
| 合計     | 72     | 61     | 75      | 81       | 67      | 66      | 81      | 50      | 61      | 51      |  |
| 高校選抜年度 | R8年度選抜 | R9年度選抜 | R10年度選抜 | R11年度選抜  | R12年度選抜 | R13年度選抜 | R14年度選抜 | R15年度選抜 | R16年度選抜 | R17年度選抜 |  |

## 町立中学校3年生対象意識調査

令和6年度町立中学校卒業生に対し、入試後に進路選択に関する意識調査を行い（令和7年3月実施）、卒業生81名のうち74名から回答を得ました。（回答者の100%が高校進学）口丹管内公立高校の中では須知高校への進学率と、園部・亀岡高校を合わせた進学率がここ数年ほぼ同程度となっています。主に普通科を選択する生徒の意識について着目することで、今後の中高連携の在り方や進路指導に手がかりが得られるのではないかと考えます。

## 回答結果

### ◆志望校を選択した理由（複数回答）

※高校（須知高校以外も含む）を志望する際  
の理由  
進学先選択で重視されたポイント（51名・複数回答）

- 学び・教育内容  
学習内容／教育方針／卒業後の進路実績
- 通いやすさ・生活条件  
通学時間・手段／学費・通学費
- 学校生活の魅力  
部活動／行事・研修／施設・環境／雰囲気
- 周囲からの影響  
家族・先生・友人の勧め／評判・イメージ

アンケート結果から、学習内容を最も重視する傾向が見られました。次いで、通いやすさや部活動など、日常の学校生活に直結する要素が多く挙げられています。

### ◆須知高校を受検した生徒が期待すること、頑張りたいこと（記述回答27名）（複数回答）

#### 学び・専門性の深化【21名】

- ・食品科学・食品加工・農業など、専門分野を深く学びたい
- ・将来につながる知識や技術を身につけたい
- ・自身の課題と向き合い、主体的に学びたい
- ・中学校よりも勉強を頑張りたい
- ・文武両道を目指したい

#### 学校行事・人間関係【6名】

- ・行事を楽しみにしている
- ・行事に積極的に参加したい
- ・友人関係を広げたい

#### 部活動への意欲【4名】

- ・部活動に力を入れたい
- ・陸上競技など、特定の競技に挑戦したい

#### 校風・学校の雰囲気【2名】

- ・自分の考えややりたいことを発言できる環境
- ・校内の雰囲気や空気感への期待

## ■ 町内中学生の意識調査から得られる魅力化のヒント

### ①「自分の適性や目標に合わせた進路選択」につながる情報発信

中学生にとって自分の適性や将来像を明確にすることは容易ではありませんが、それでも納得できる進路を選びたいと考えています。そのため、須知高校の教育内容や在校生の活躍を分かりやすく伝え、「須知で頑張りたい」と思える具体的なイメージを持ってもらうことが重要です。在校生の姿を軸とした情報発信を工夫することが、選ばれる学校づくりにつながると考えられます。

### ②通学条件は強み

町内の中学生は須知高校が通いやすいことを理解していますし、保護者にとっても通学費や送迎の必要がないのは都合がよいことです。それでも敢えて時間と費用をかける価値を他校に見いだす町内中学生に対して、この通学条件が須知高校の大きな強みであるというのを改めて打ち出していく必要があるのではないのでしょうか。

### ③新ジャンルの活動を魅力に

ホッケー部は須知高校の大きな魅力であり、今後も全国募集の軸として強化していきます。一方で、小規模校ゆえに部活動の選択肢には限りがありますが、近年は部活動以外にも充実感を得られる活動が重視されつつあります。食品科学科の専門部活動や高校生版イノベーションラボ、全国的な成果を上げた菊部などは、須知高校ならではの強みであり、積極的に発信すべき魅力です。

### ④少人数は最大の強み

町内中学生は、より人数の多い学校に魅力を感じる傾向がありますが、少人数校に対するマイナスの印象には明確な根拠は見られません。そこで、須知高校における少人数の強みを客観的に示すことが重要となるのではないのでしょうか。例えば、学力の伸びや学校生活の満足度などのデータを提示することで、漠然とした不安を払拭し、少人数指導こそが須知高校の大きな魅力であることを効果的に伝えられるかもしれません。

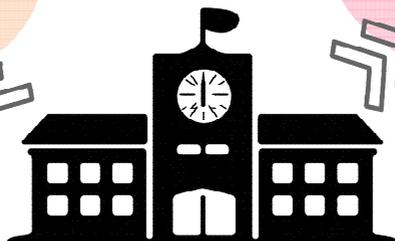
### ⑤卒業+他にない価値

進路選択において大学等の進学実績を重視する声は比較的少ない点は特徴的ですが、須知高校ならではの付加価値が十分に伝われば、関心の高まりが期待できます。須知高校には、給付型奨学金や大学授業料免除制度、地域施策と連動した専門分野への道、学習・資格取得支援、海外留学制度など、他校にない強みがあります。こうした「進学実績以外の価値」を分かりやすく発信していくことが重要です。

## ■ 町から高校がなくなったらどうなるか

地域の  
人口減少

地域経済・産業  
文化の衰退



地域コミュニティ  
の衰退

地域の活力  
の減退

- 町に高校がなくなると他市町への通学を余儀なくされ、進学の実選択肢が町外のみとなる。
- 高校進学率が98%を超える現状において、高校が統廃合により地域から消失すると、子どもを持つ家庭にとってその地域は「子どもを産み育てる町」という選択肢から外れやすくなる。その結果、若い世代を中心とした人口流出が進行する。
- 子育てできる環境が十分に整っていないければ、たとえ自らが育った懐かしいふるさとであっても「この地域に住み続けたい」「いずれは戻ってきたい」「この地域で働きたい」と感じにくくなる。
- 地方暮らしに関心があったとしても、子育て世代が家族単位でU・Iターンするという発想には結びつきにくい。その結果、人口減少や少子高齢化、過疎化にますます歯止めがかからなくなり、生産年齢人口の減少を通じて、地域の経済・産業、さらには文化の衰退へとつながっていく。
- 地域の中心的存在である高校がなくなることによって、地域イベントや活動の機会が減少し、地域のつながりやアイデンティティが弱まり、町全体の活力が失われていく。

### 実現したい町の姿

- 高校を起点として、継続的に関係人口が創出されていく町
- 京丹波町で「新しいことに挑戦したい」と考える若者が集まり、増えていく町
- 高校をハブに、京丹波町を主体的に盛り上げる人材が育ち続ける町

# 地域での 高校の取組

ロ丹管内では「ロ丹の子はロ丹で育てる」という理念の下、平成16年に南丹地区幼稚園・小学校・中学校・高等学校連絡協議会（以下、幼小中高連）が発足し、幼小中高の連携を進めてきました。京丹波町においても「第2期京丹波町教育振興基本計画」および「京丹波町教育の指針」（京丹波町教育委員会）で「須知高校との連携と活性化支援」を重点事項のひとつとしており、幼小中高の連携については相互の協力体制が十分に整っています。体験活動や高校生とのふれあいを通して須知高校の真の姿や魅力を子どもや保護者に知ってもらい、より多くの子どものみ選ばれる学校となるよう様々な取組を進めてきました。

## 01 中高連携・教育接続交流

### ■【須知高校セミナー】（現役須知高校生と中学生の本音トークセッション）



町立中学校3年生の進路学習として「須知高校セミナー」を実施しています。地元唯一の公立高校である須知高校を生徒・保護者・教員に理解してもらい、在校生との交流を通して高校生活を具体的にイメージし進路意識を高めることがねらいです。中高連携のもと、高校生は母校を訪れてパネルトークに参加し、「なんで須知高校なん？」といったテーマで進学理由や今の学

校生活を語ります。顔なじみの先輩が成長した姿で話す言葉は、中学生に親しみと憧れを与え、教員主体の説明よりも心に響きます。さらに須高座談会では車座で本音の交流が生まれ、和やかな雰囲気包まれます。高校の魅力をもっと説得力をもって伝えるのは高校生自身であることを実感できる取組です。



## ■【高校教員の出前授業】（中学3年生の入試対策講座）

中学生にとって高校は未知の世界で、先輩と同様にどんな先生がいるのか気になるところです。そこで瑞穂中学校では須知高校の先生に3年生の入試対策講座を担当してもらっています。入試を意識しながらわかりやすく指導してくれる高校の先生に対して「高校の先生はもっと厳しいと思っていたけど違った」「こんな良い先生がいるんだ」と安心感を持つ生徒もいるとのこと。須知高校入学後のギャップ解消にも役立つ取組です。

## ■【ジュニア世代の学びと提案】（探究的な学習の成果発表会）

町立小中学校では「総合的な学習の時間」、須知高校では「総合的な探究の時間」でそれぞれ探究学習に取り組んでいます。小中学校では京丹波町をまるごと学びのフィールドにする「未来を考える京丹波GREEN SCHOOL」のコンセプトに基づいて主に地域に根差した探究学習を進めています。須知高校普通科では「京丹波学」として自らの興味関心に基づきテーマを設定し、京丹波町をフィールドに社会や世界とつながり、課題解決を目指す探究学習に取り組み、食品科学科ではその専門性に基づいた課題研究を行っています。特に中高では共通する課題も多く、その成果発表から互いに学ぶというねらいで、町教育委員会主催の「ジュニア世代の学びと提案」と題した発表会を実施しています。その交流から瑞穂中学校の生徒が探究課題に選んだ京丹波町特産「丹波くり」でつくる「栗マカロン」の案を須知高校食品科学科の生徒が引継ぎ、HOTEL THE MITSUI KYOTOのシェフの指導のもと、試作するという連携も生まれました。小中学校から須知高校へと学びの系統性を意識しながら段階的に質を高めていけるよう連携することは「京丹波×学」そのものと言えます。



## 【町立中学校進路指導担当者会議】

須知高校において、毎年1回、町立中学校進路指導担当者会議を開催し、須知高校の取組の報告や中学校における今後の進路指導について交流協議を行っています。中学校教員も地元の高校でありながら須知高校についてよく知らないという場合が多々あります。各中学校で具体的な進路指導に当たる教員が、須知高校の特色ある教育内容について理解しておくことは基本です。さらに先述の「通学条件も大きな強み」「少人数は最大の強み」「卒業+他にない価値」について正しく情報提供することで、生徒によく考える機会を与え「自分の適性や目標に合わせた進路選択」をできるようにすることが進路指導上の重要なポイントとなります。

## 02 地域の子どもとつながる活動

### ■【環境食育校種連携パートナーズクール事業】（須知高校での体験活動）



中高が連携し、地域の教育資源を活かした取組を通して、同じ地域に学ぶ人たちがつながりあい、京丹波町の魅力を再発見するとともに、明日の京都丹波を担う人づくりを進めることをねらいとした南丹教育局主催の事業です。この事業は平成22年から始まり、はじめは須知高校と町立小学校で毎年実施し、平成27年からは町立中学校と毎年取り組んでいます。

令和7年度は「京丹波町の資源を生かした、京丹波町ならではの挑戦」というテーマで須知高校教員が中学校で講演し、次に中学生が須知高校を訪れて高校生とともにピザやチーズ作りに取り組んだり、校地の竹材を加工して作品を作ったりする等、体験活動を通して交流しました。参加した各中学校ではこの体験活動を探究学習の第一歩としてそれぞれの取組を進め、その成果を須知高校の「課題研究発表会」でも報告します。こうしたつながりが、中高生双方の学びにつながり、自分たちの京丹波町について考える良い機会となっています。



### ■食品科学科「課題研究発表会」

食品科学科では農業や食品製造に関する課題を解決すべく、3つのコースで生徒が研究に取り組みます。例えば、町内の長老酒造と連携して未利用資源である酒粕を活用したアイスの開発、販売・啓発活動に取り組む等、その研究成果は京都府学校農業クラブ連盟大会で最優秀賞を獲得するなど高い評価を得ています。こうした食品科学科の優れた取組を多くの方に知ってもらうため、毎年1月に役場で発表会を開催しています。参加した地域企業の方や後輩、先生からの質問にも的確に答え、研究に取り組んできた実績と自信をうかがわせます。



## ■【菊づくり】（菊づくりを通じたキャリア教育）



須知高校は日本菊花会主催「日本菊花全国大会」において、令和6年、7年と連続して菊づくり日本一の賞である「高松宮妃記念杯」を賜る快挙を成し遂げました。須知高校の教員の指導のもと、食品科学科の生徒たちが丹精込めて育てた菊は、今や須知高校のシンボルとなっています。その取組を町内小中学校でも共有し、高校生から学ぼうと令和2年から蒲生野中学校をはじめ、下山小学校、丹波ひかり小学校で児童生徒が菊づくりを始めました。菊づくりを通して須知高校を見つめるキャリア教育の視点からの取組です。小中高で育てた菊は日本菊花全国大会のほか、京都府立丹波自然運動公園で開催する菊花展にも出品され、来場者から好評をいただいています。



## ■部活動



ホッケーを通じた連携を大切にしています。瑞穂中学校・蒲生野中学校にはホッケー部があり、須知高校ホッケー部との合同練習を定期的に行うことで、ホッケータウン京丹波としての振興と競技力向上を図っています。また、町立小学校にも高校生が出向いて指導を行うなど、子どもたちがホッケーを身近に感じ、楽しめるような工夫も重ねています。

## 03 連携における高校生の主体的活動

### ■【高校生版イノベーションラボの活動】

NPO法人「京丹波イノベーションラボ」（京丹波町が持つ資源や資産を活用したタウンプロモーションを遂行）に須知高校生も参加しており、「高校生版イノベーションラボ」として活動しています。

須知高校の活性化に問題意識を持ち、令和7年夏、「須知って、実はすごい。」と題したイベントを企画運営し、中学生対象の学校見学会を実施しました。少人数を最大限の強みとした学習スタイルをアピールし、須知高校の若手教員に対するインタビューで先生方の熱い思いを引き出し来場者に伝えました。

この活動は課外活動として行っていますが、高校生主体で学校の活性化と魅力化に取り組んでいく探究的な活動という位置づけて、今後の須知高校の新たな強みになっていくことを期待しています。



### ■【生徒会の合同活動】（災害義援金募集活動）（双葉町との交流事業）

コロナ禍で途絶えた様々な生徒の活動が少しずつ復活し始めた令和6年1月に能登半島地震が発生しました。それぞれの生徒会役員が何かできることはないかと考え義援金募集活動を思い立ち、ならば一緒にやろうということで小中高で取り組みました。須知高校がリーダーシップを取り、京丹波町内の児童生徒が結束して取り組んだ初めての活動でした。

また1970年よりご縁のあった福島県双葉町の子どもたちと交流してきましたが、京丹波町合併後の平成18年に友好町提携盟約を締結し、より充実した交流事業を行っています。この間には東日本大震災で双葉町が甚大な被害に見舞われるという痛ましい出来事もありました。交流事業に参加した須知高校生や町立中学校の生徒たちはやがて大人になりますが、双葉町の生徒との交流を通して感じ取ったことや学んだことは計り知れず、それらがふるさとの人、歴史、文化、未来を考える源になっていくに違いありません。

# ビジョンが できるまで

## 01 京丹波町と須知高校の魅力化に向けた勉強会

平成27年に「京丹波町における須知高校の在り方懇話会」が持たれた際、少子高齢化や過疎化に直面しながらも高校の魅力化に成果が得られた島根県立隠岐島前高校の事例報告があり、町と高校の活性化を模索しようとした経緯がありました。その後、島根県の実践は広く波及され、現在は、同じような課題に直面する全国の自治体や高校が魅力化に取り組んでいます。そこで、須知高校の今後が問われる今、前回の懇話会をさらに発展させ、須知高校の今後の魅力化について検討するため、令和6年9月に「京丹波町と須知高校の魅力化に向けた勉強会」が発足しました。この勉強会は、平成27年に行われた「在り方懇話会」から、さらに参加者の裾野を広げ、町長をはじめとする町理事者、関係町職員、須知高校教職員、PTA会長、同窓会会長、町内小中学校長などの教育関係者等が集まりました。また、須知高校の生徒も当勉強会に参加し（第2回）、以下の通り全6回の勉強会を通して、今後の学びの在り方や方針等を盛り込んだ「須知高校魅力化ビジョン」の策定に取り組みました。

第0回 2024.9.30 「高校を核とした新しい人の流れづくりに向けて」

第1回 2025.1.30 「これからの京丹波町でどんな人材を育てたいか」

第2回 2025.5.08 「20年後の京丹波町で活躍する人物像」

「高校卒業時に身につけてほしい力」

第3回 2025.6.24 「高校卒業時に身につけてほしい力を育むために」

第4回 2025.7.29 「高校卒業時に身につけてほしい力を育むための方法について」

第5回 2025.9.10 「魅力化に向けた勉強会のまとめ」



## 02 勉強会の流れ

### 第1回 2045年の京丹波町の姿と活躍する人は？

(基調共有)

- ・日本や世界の教育の現状 (PISA2022結果、18歳意識調査等)
- ・若者の自己肯定感や主体性の課題、変化する社会
- ・職業構造に対応する教育の必要性
- ・地方創生やリバース・イノベーションの事例

(対話型ワーク)

- ・2045年の京丹波町の望ましい姿をイメージし、その社会で活躍する人材像を意見交換
- ・付箋やグループ化による意見の可視化・整理 (KJ法的手法)

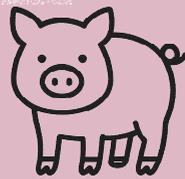
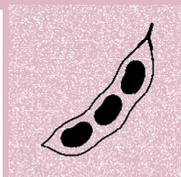
第1回勉強会では、京丹波町と須知高校が一体となって将来の教育像を描くための第一歩となった。参加者が世代や立場を越えて対話を重ねたことで、多様な視点を反映した今後の教育ビジョンづくりに向けて貴重な基盤を形成できた。

#### 第1回のまとめ 2045年の京丹波町の姿

01

#### 自然・産業・食

- ・自然、農業、食育、森林との共生
- ・おいしい・つくる・盛ん
- ・「食の町」×持続可能な産業づくり



02

#### 人の動き・暮らし

- ・移住者・Uターン・若い人がやってくる
- ・住みやすい・子育てしやすい環境
- ・ウェルビーイング・元気なまち

03

#### 地域のつながり 安全・学び

- ・地域防災・教育・交流による安心感
- ・子ども、高校、大人がつながる学び
- ・共助と協働による支え合える町へ

## 02 勉強会の流れ

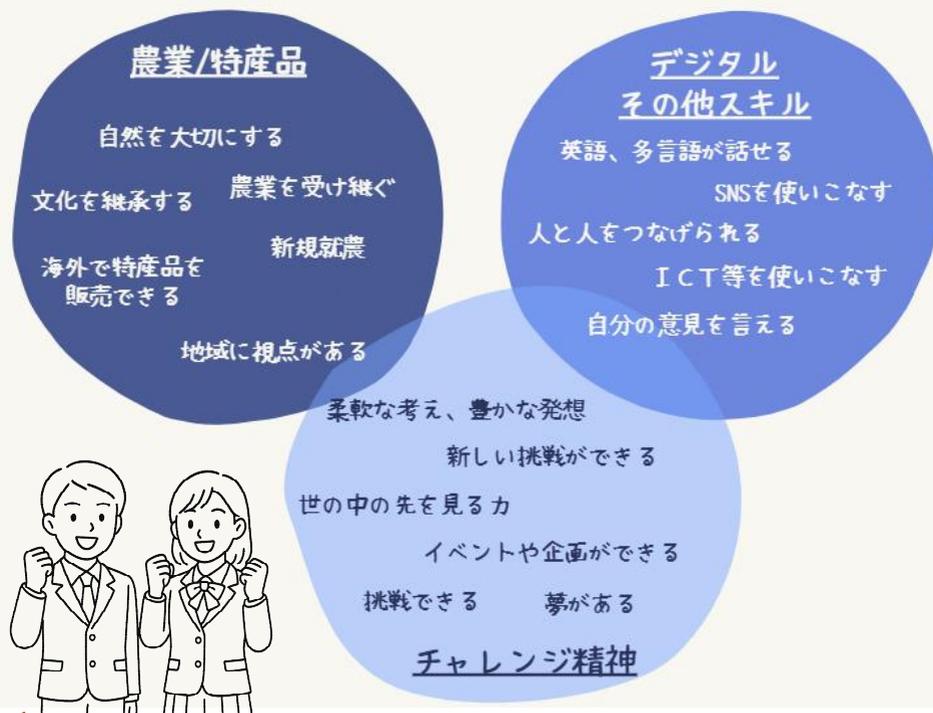
### 第2回 高校卒業時に身につけてほしい力の検討

(前回までの内容・意見整理)

- ・町の方々や高校生による「2045年の京丹波町」の理想像を共有
- ・出現頻度分析から「移住者」「自然」「防災」「つくる」など特徴的な語を抽出(ディスカッション)
- ・高齢者も元気に暮らせる環境づくりや、若者が残りたくなる仕組み
- ・高校卒業時に身に付けるべき力の検討  
(外部事例紹介：徳島県上勝町)
- ・高齢化率50%ながら年間売上3億円規模を達成した成功例を共有

第2回勉強会では、未来を支える人材像と高校卒業までに身につけてほしい力を、町民・高校生・行政・学校関係者など多様な視点から深く議論した。「移住者」「自然」「防災」「つくる」などのキーワードが示す地域特性や価値観を改めて共有できた。

#### 第2回のまとめ 高校卒業までに身につけてほしい力



## 02 勉強会の流れ

### 第3回 新しい教育手法のインプット

(教育手法の具体化)

- ・「映画 『Most likely to succeed』 視聴/PBLやソフトスキル育成の先進事例学習
- ・須知高校で取り入れ得る教育施策・授業・課外活動の検討
- ・アメリカ「High Tech High」、国内の高校魅力化事例紹介  
(隠岐島前高校、大空高校、弓削高校、新渡戸学園など)

(グループ対話)

- ・「どのような教育を行うと、求める資質能力が育まれるか」
- ・須知高校の現行方針と地域の新たな教育ビジョンを統合する方向性の検討

第3回勉強会では、「どのような教育によって必要な資質・能力を育むか」という具体像が一層鮮明となり、須知高校のスクールミッション・ポリシーと地域の教育ビジョンを結び付ける方向性が明確化された。

### 第3回のまとめ どのような教育を行うと求める資質能力が育まれるか

#### 地域とつながる力



- ・町内の小中学校との連携
- ・地域の伝統文化、歴史、  
伝統芸能を学ぶ
- ・地域の人との交流

#### 未来を切り開く力



- ・主体的に進め、教科横断を意識した  
地域探究
- ・ICTやデジタルを活用した学び
- ・キャリア教育、進路実現、資格取得

#### 学びを継続できる力



- ・学校行事の見直し、精選
- ・スクールバスの運用など、交通  
アクセス面の向上
- ・普通科と食品科学科による単位互換、  
横断的学び

## 02 勉強会の流れ

### 第4回 「身に付けてほしい力」を養成するための具体的戦略の検討

(新しい教育手法・外部事例の共有)

- ・国内外の教育改革や大学入試の最新動向、義務教育段階の探究的学びの学習
- ・総合型選抜(旧A0入試)、探究型・創造型入試問題の事例紹介

(グループワーク)

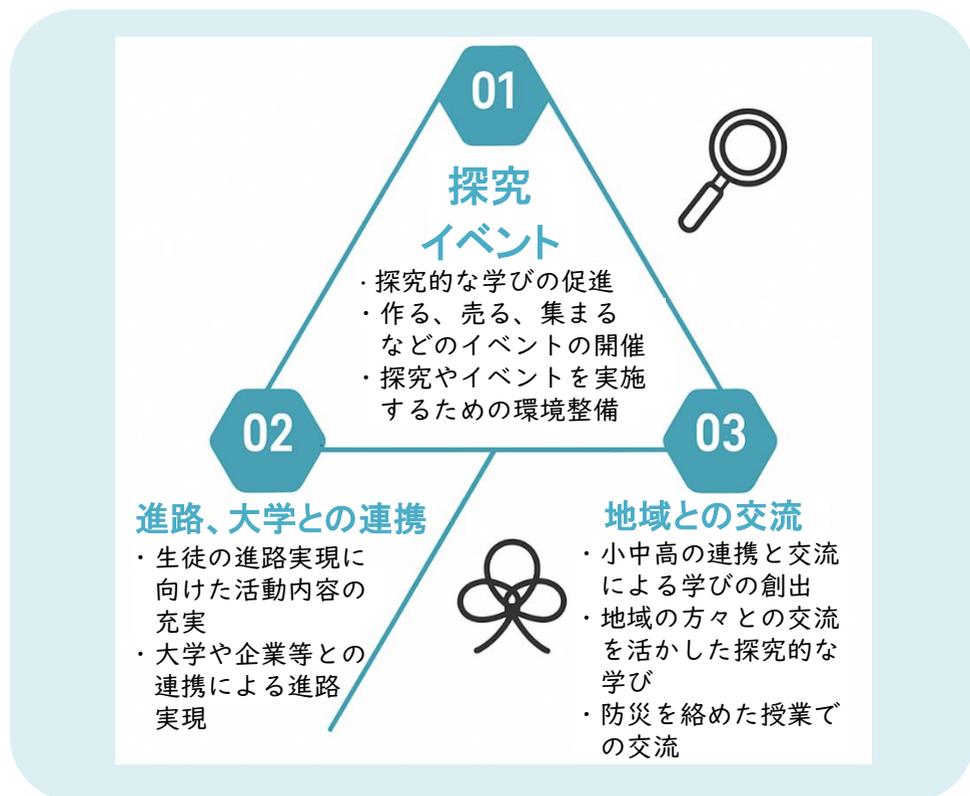
- ・これまでの意見や資料をもとに付箋ワーク / 教育方針の具体的戦略の検討

(教育方針の整理)

- ・須知高校の新たな教育ビジョンの柱「①土から食卓」「②地域探究」「③ICT・デジタル」「④キャリア教育・進路実現」「⑤起業・ビジネス」

第4回勉強会では、須知高校が目指す教育ビジョンの柱が鮮明になり、教育ビジョンを実行可能な戦略としてまとめ上げるための重要なステップとなった。

### 第4回 のまとめ 教育方針の具体的な行動や戦略



## 02 勉強会の流れ

### 第5回 まとめ

(教育ビジョンの最終像の確認)

- ・「土から食卓」「地域探究」「ICT・デジタル」「キャリア教育・進路実現」「起業・ビジネス」 須知高校5つの教育方針と町の教育方針を統合した最終案の共有 (ネクストアクションの検討)
- ・教育ビジョン実現に向けた役割分担などの具体的な取り組み等における方向性の確認 (グループ対話)
- ・「魅力化の活動の結果としてどのような成果が得られるか」について意見交換、成果イメージの共有

第5回勉強会では、全5回にわたって重ねてきた検討を集大成し、京丹波町と須知高校が共有する教育ビジョンを最終的に確認・完成させる場となった。

### 第5回のまとめ 魅力化の活動の結果としてどのような成果が得られるか



#### 町の活性化

- ・地域の持つ価値について理解を深める
- ・地域の課題や未来について洞察する
- ・郷土愛が育まれる/京丹波町を訪れる人が増える



#### 思いの共有

- ・産官学民など多くのステークホルダーの意識共有につながる
- ・京丹波町のまちづくりに関心を持つ人が増える

魅力化の  
成果



#### 人づくり

- ・地域で活躍する人材育成
- ・地域が求める人材へのビジョン構築
- ・人同士、町や企業の新たなつながり創出

# わたしたちの 描いたビジョン

かける まなび

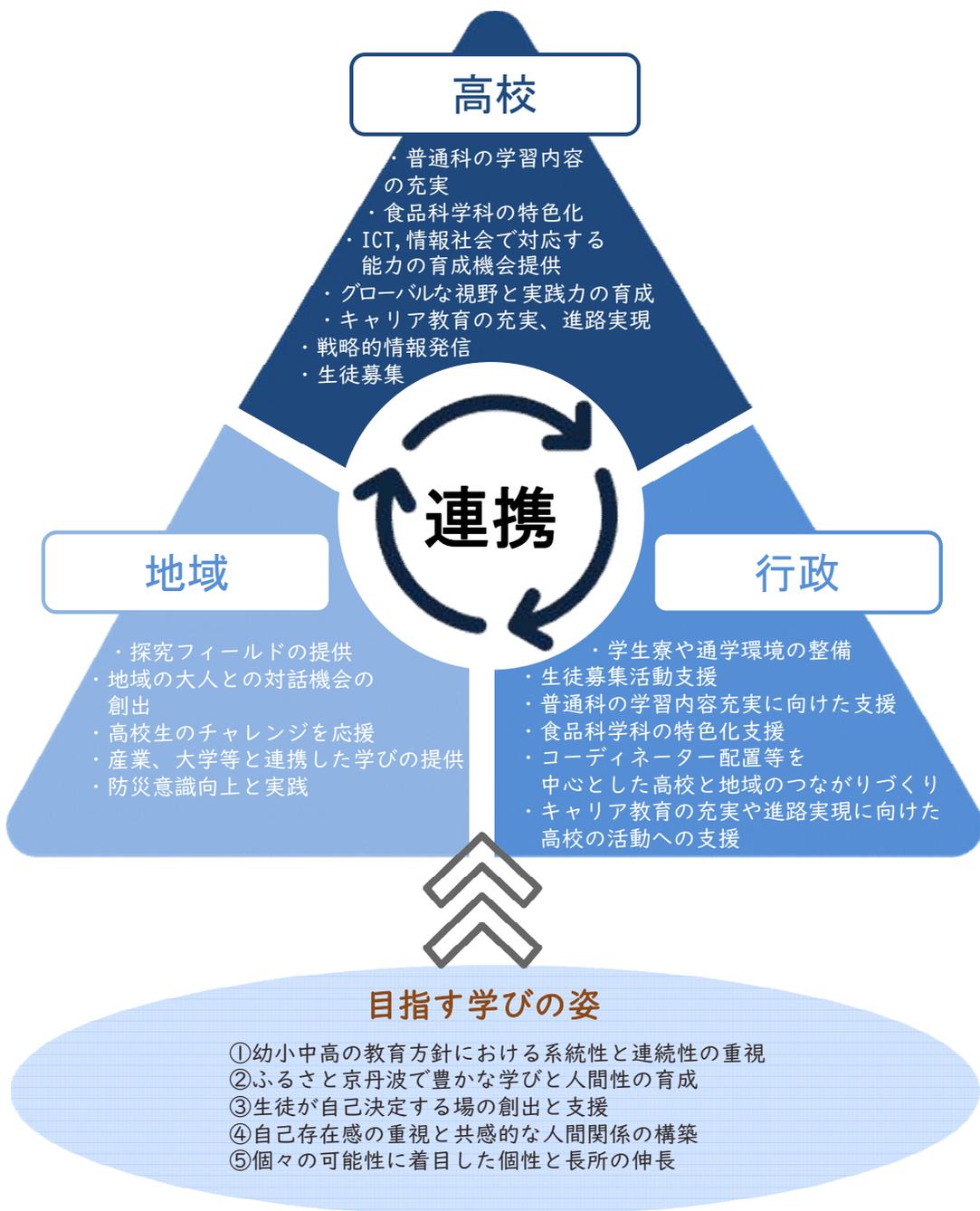
# 京丹波X学

学ぶ・生きる・育つ ～地に足つけた教育～

本ビジョンのキャッチコピーは「京丹波×学（まなび）」と表記し、「京丹波かける学び」「京丹波エックス学び」など、さまざまな読み方ができます。あえて一つに定めがないのは、「X」に多様な意味と可能性を込めているからです。未知数としてのX、交差点としてのX、掛け算としてのX—立場や関わり方によって、それぞれが自分なりの「京丹波×学」を描いてほしいという願いを込めています。「X（エックス）」は、未知の問いに向き合い、新しい価値を生み出す探究の姿勢を象徴します。イノベーションやデジタル、海外へと視野を広げ、未来に向けて学び続ける挑戦の精神を表しています。

一方の「クロス（掛け合わせ）」は、京丹波を舞台に、人・学び・産業・文化といった多様な資源が出会い、交差することで新たな価値が生まれる力を示します。交通の要衝として人や知が行き交い、日本三大農牧学校の一つとして最先端の学びが集まった京丹波は、縁とつながりによって発展してきた町です。その歴史の上で、今、伝統と最先端が再び交差しようとしています。地域×高校、食×学び、小中×高校、普通科×食科、学び×発信—それらは足し算ではなく掛け算となり、学びと可能性を大きく広げていきます。生徒・地域・学校が共に探究し、共に育ち、学びを社会へ還していく。その循環から生まれる新しい風が、未来の担い手を育てます。多様な出会いが交差し、思わぬ化学反応が生まれる—それが「京丹波×学（まなび）」なのです。

# ビジョン達成に向けた主体間の連携イメージ図



# ビジョン実現 3つのステップ



## STEP 01 魅力化の浸透

- “変わり始めた学校”  
として認知される
- 高校魅力化プロジェクトを実施しているところが地域や中学生、保護者に理解されている

## STEP 02 学びの深化

- “須知で学びたい”  
思ってもらえるような教育プログラムの充実
- 京丹波町の特色を生かした学びの展開

## STEP 03 定着・循環モデル

- これまでの取組についての評価、見直し
- 今後の取組の取捨選択
- 属人化しないための仕組みづくり

## STEP01

## 魅力化ビジョンの発信・浸透

まずは須知高校の活性化や魅力化に、学校と町が一体となって取り組んでいることを周知し、広く関心を持っていただくことが必要です。長い間、須知高校は町民にとって当たり前の存在として認識されてきており、須知高校が存立し続ける意義について考える機会があまりなかったのではないかと考えるからです。そのうえで、これからどんな未来を描くのかを須知高校魅力化ビジョンとして広く共有するとともに、生まれ変わろうとする須知高校を町全体で応援していく機運を高めていくことを目指します。

### 【基本方針】2026～2027年

- ・「須知高校魅力化プロジェクトビジョン」を町HP、高校HPで公表する
- ・須知高校教育魅力化コーディネーター（以下、魅力化CN）を須知高校に配置する
- ・魅力化CNの研修を実施するとともに学校内外で活躍できる環境を整備し、須知高校教職員とともに各関係機関の連携の充実と効果的かつ戦略的な情報発信に取り組む
- ・小中高連携に関する各事業について、その目的を教職員間で再度確認して取り組む
- ・町内中学生の進路意識調査を実施する
- ・町立中学校から須知高校への進学率50%以上を目指す
- ・「京丹波町・夢みらい留学」制度による府外生徒の寮生活を安定させるとともに更なる生徒募集に取り組む

## STEP02

## STEP03

## 学びの深化 定着と循環

魅力化CNの配置による学習の充実や「京丹波町・夢みらい留学」制度による府外生徒の受入などの新たな取組が須知高校に新しい風を吹き込みます。こうした動きを学校内外で適切に評価しながら、中長期的な視点で須知高校の魅力と教育力を高めていきます。そのためには、学校・行政・地域による「3者の連携」が盤石となる必要があります。そして「須知で学びたい」と思ってもらえるような学校づくりと教職員が変わっても須知高校そのものの魅力と教育力を維持発展していくシステムを構築することを目指していきます。

### 【基本方針】2027～2028年

- ・小中高連携に関する各事業や中学校での進路指導において、小中高より密な連携を図り、町立中学校の生徒が適切に判断して進路選択できるようにする
- ・町立中学校から須知高校への進学率50%以上を持続させる
- ・近隣市等からの入学者増に取り組む
- ・「京丹波町・夢みらい留学」制度による寮生活で自主自立した生徒を育成する
- ・「京丹波町・夢みらい留学」制度による留学生を毎年受け入れる
- ・府外生徒の積極的な生徒募集を通してホッケー部の活性化と強化を図る
- ・府内の遠隔地からの通学環境整備に取り組む
- ・魅力化CNが須知高校教職員の一員として活躍し、普通科の総合的な探究の時間や食品科学科の課題研究、個々の生徒の学力伸長や進路実現にも貢献できるシステムを構築する
- ・京丹波町内外の地域、企業、大学等との連携と協働を進める
- ・生徒を主体とした情報発信に取り組む等、生徒も須知高校の活性化と魅力化の主体者となるような活動を推進する

# おわりに

輝き続ける京丹波町・須知高等学校であるために

本校は、京丹波町唯一の公立高校として「地域と共に歩み、信頼され、地域を核として社会を支える人材の育成」を目指し、日々教育活動を推進しております。

日頃より、地元京丹波町の皆様から多大な御支援を賜り、また地元企業からは奨学金や就職支援をいただくなど、学力の向上や資格取得、地域と連携した探究活動、部活動など、特色ある教育活動の展開にお力添えいただいておりますこと、心より感謝を申し上げます。

さて、令和6年度より「須知高校魅力化プロジェクト」が発足し、京丹波町と須知高校の未来をともに考えていくため「京丹波町と須知高校の魅力化に向けた勉強会」を開催しました。京丹波町、須知高校を中心に近隣小中学校、地元学識者、コンサルティング会社など、多くの方々に御参加をいただき、貴重な御意見・御助言を賜りながら、ビジョン策定を進めてまいりました。御協力をいただきました関係者の皆様に、改めて深く感謝申し上げます。引き続き、京都府教育委員会とも連携し、本校の魅力化と活性化に向けた取組を強化してまいります。

現時点でとどまることのない人口減少の波をどのように乗り越え、10年後、20年後も存続し、輝き続ける京丹波町および須知高等学校であるために、「将来のために今何ができるか」「現状に満足せず、さらに魅力を向上されるために何が必要か」を問い続けることが重要だと考えます。今回策定した須知高校魅力化プロジェクトビジョンが、京丹波町と須知高校のさらなる発展の礎となりますことを心より期待しております。

来年、須知高校は、京都府農牧学校創立から数えて150年の大きな節目を迎えます。全国屈指の伝統校である須知高校を「京丹波町の宝」として今後とも変わらぬ御支援とお力添えを賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

むすびにあたり、日頃より須知高校を支えてくださっている京丹波町の町民の皆様、心から感謝申し上げます。皆様からの温かい御理解と御協力があったこそ、本校は地域とともに歩み続けることができます。須知高校魅力化プロジェクトビジョンを胸に、京丹波町と須知高校の未来をさらに輝かせるため、全力で取り組んでまいります。

令和8年3月吉日

京都府立須知高等学校 校長 坂本正義

# 関係者一覽 (令和6～7年度)

## ■「京丹波町と須知高校の魅力化に向けた勉強会」参加者

| 所属                 | 役職             | 氏名    |
|--------------------|----------------|-------|
| 京都府立須知高等学校         | 校長             | 坂本 正義 |
| 京都府立須知高等学校         | 副校長            | 近本 大作 |
| 京都府立須知高等学校         | 事務長            | 本田 雅裕 |
| 京都府立須知高等学校         | 教務部長           | 俣野雄一郎 |
| 京都府立須知高等学校         | 進路指導部長         | 辻垣 晃一 |
| 京都府立須知高等学校         | 農場部長           | 八里 修平 |
| 京都府立須知高等学校         | 教員 (令和6年度)     | 小野 仁  |
| 京都府立須知高等学校         | 教員             | 櫻井 栄輔 |
| 京都府立須知高等学校         | 教員             | 佐藤 庸平 |
| 京都府立須知高等学校         | 教員             | 高橋 祥子 |
| 京都府立須知高等学校         | 教員             | 西田 真史 |
| 京都府立須知高等学校         | 教員             | 野口 莉緒 |
| 京都府立須知高等学校         | 教員             | 長谷川 靖 |
| 京都府立須知高等学校         | 教員             | 松木 由佳 |
| 京都府立須知高等学校         | 同窓会長           | 片山 俊明 |
| 京都府立須知高等学校         | 同窓会顧問          | 中西 和之 |
| 京都府立須知高等学校         | PTA会長 (令和6年度)  | 山下 稔  |
| 京都府立須知高等学校         | PTA会長          | 居谷 知範 |
| 京都府立須知高等学校         | 普通科地域探究コース 2年生 | 2名    |
| 京丹波町               | 町長             | 畠中 源一 |
| 京丹波町               | 副町長            | 山森 英二 |
| 京丹波町               | 総務部長           | 松山 征義 |
| 京丹波町               | 商工観光課長         | 片山 健  |
| 京丹波町               | 商工観光課係長        | 一瀬 紳司 |
| 京丹波町               | 企画情報課長         | 堀 友輔  |
| 京丹波町               | 企画情報課長補佐       | 下村 邦喜 |
| 京丹波町               | 高校魅力化担当        | 谷口 恭子 |
| 京丹波町               | 移住担当           | 川邊 弘太 |
| 京丹波町教育委員会          | 教育長            | 松本 和久 |
| 京丹波町教育委員会          | 教育次長           | 岡本 明美 |
| 京丹波町教育委員会          | 総括指導主事         | 長尾 朋美 |
| 京丹波町教育委員会          | 教育振興室長         | 畑山晃一郎 |
| 京丹波町教育委員会          | 社会教育課主幹        | 小原 直也 |
| 京丹波町立蒲生野中学校        | 校長             | 人見 平安 |
| 京丹波町立蒲生野中学校        | 教頭             | 久保 克敏 |
| 京丹波町立瑞穂中学校         | 校長             | 寺本 裕彦 |
| 京丹波町立和知中学校         | 校長 (令和6年度)     | 平井 浩一 |
| 京丹波町立和知中学校         | 校長             | 船越 英志 |
| 京丹波町立和知中学校         | 教頭             | 内藤 武司 |
| 京丹波町立竹野小学校         | 校長             | 入江貴美子 |
| 京丹波町立丹波ひかり小学校      | 教頭             | 中井 典宏 |
| 京丹波町立下山小学校         | 校長             | 上畑 君代 |
| 京丹波町立瑞穂小学校         | 校長             | 下村 敦  |
| (株) Prima Pinguino | 共創部 部長         | 竹内 新  |
| (株) Prima Pinguino | 共創部 課長         | 跡見 愛美 |

■ 「須知高校魅力化プロジェクト」コア会議

| 所属                 | 役職              | 氏名    |
|--------------------|-----------------|-------|
| 京都府立須知高等学校         | 校長              | 坂本 正義 |
| 京都府立須知高等学校         | 教務部長            | 俣野雄一郎 |
| 京都府立須知高等学校         | 進路指導部長          | 辻垣 晃一 |
| 京都府立須知高等学校         | 農場部長            | 八里 修平 |
| 京丹波町教育委員会          | 教育長             | 松本 和久 |
| 京丹波町教育委員会          | 教育振興室長          | 畑山晃一郎 |
| 京丹波町立中学校長会         | 会長              | 人見 平安 |
| 京丹波町               | 商工観光課長          | 片山 健  |
| 京丹波町               | 商工観光課係長         | 一瀬 紳司 |
| NPO法人京丹波イノベーションラボ  | 政策アドバイザー        | 佐藤晋太郎 |
| 京丹波町               | 企画情報課長          | 堀 友輔  |
| 京丹波町               | 企画情報課長補佐        | 下村 邦喜 |
| 京丹波町               | 高校魅力化担当         | 谷口 恭子 |
| (株) Prima Pinguino | 共創部 部長          | 竹内 新  |
| (株) Prima Pinguino | 共創部 課長          | 跡見 愛美 |
| (株) Prima Pinguino | 共創部プロジェクトマネージャー | 照井 将人 |

■ 「須知高校魅力化プロジェクト」ワーキンググループ

| 所属                 | 役職              | 氏名    |
|--------------------|-----------------|-------|
| 京都府立須知高等学校         | 校長              | 坂本 正義 |
| 京都府立須知高等学校         | 教務部長            | 俣野雄一郎 |
| 京都府立須知高等学校         | 進路指導部長          | 辻垣 晃一 |
| 京都府立須知高等学校         | 農場部長            | 八里 修平 |
| 京丹波町教育委員会          | 教育長             | 松本 和久 |
| 京丹波町教育委員会          | 教育振興室長          | 畑山晃一郎 |
| 京丹波町立中学校長会         | 会長              | 人見 平安 |
| 京丹波町               | 企画情報課長          | 堀 友輔  |
| 京丹波町               | 企画情報課長補佐        | 下村 邦喜 |
| 京丹波町               | 高校魅力化担当         | 谷口 恭子 |
| (株) Prima Pinguino | 共創部 部長          | 竹内 新  |
| (株) Prima Pinguino | 共創部 課長          | 跡見 愛美 |
| (株) Prima Pinguino | 共創部プロジェクトマネージャー | 照井 将人 |